



2010年7月より、第3内科からアメリカ、ミネソタ州ロチェスターにありますメイヨークリニックへ留学させて頂いております、平成14年信大卒の加藤修明と申します。

まずはこのような機会を与えて下さった池田修一教授と、本留学にあたりご支援を頂いた信州大学医学部附属病院に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

ロチェスターのあるミネソタ州はアメリカ北部、五大湖の西に位置する州です。信州よりもさらに高緯度、内陸に位置するこの地域は、現在筆をとっております冬のこの時期は氷点下20度にもなります。夏の暑さは信州と同じくらいでしょうか。

ロチェスターの人口は松本よりも少なく10万人ほどでアメリカの中では田舎町のようなのですが、ほとんど長野県から出たことがない私にとっては暮らしやすい街です。美しく、清潔で、よく整備されています。治安が全米トップクラスで良いところも、初めて海外生活をする私にとってはありがたく、特筆すべき点でした。夏の間は、スーパー等の駐車場で窓全開の車が平気で停めてあるのをよく見かけました。

ロチェスターの主な施設はメイヨークリニックとIBMの大工場で、人口の多くがどちらかに関連した職で支えられている、医療関連産業とハイテク産業の町です。そのメイヨークリニックは、全世界から要人、有名人を含む多くの患者さんが集まる世界有数の病院で、ダウンタウン（中心街）の中央にあります。氷点下20度という厳しい冬のために、メイヨークリニックを中心として空調完備、バリアフリーの地下通路や空中通路で主要施設が連結されています。市内のあちこちには、メイヨーのシンボルマークの付いた関連施設をよく見かけ、メイヨーの運営する銀行まであります。

松本空港よりもさらに小さなロチェスター空港がなぜか国際空港なのも、アラブの富豪等の要人が直接飛行機でロチェスター入りできるようにとのことのようにです。

このような大病院へ留学することとなり、しかも初めての海外生活ということもあって当初は戦々恐々となりましたが、幸い所属したラボがとても自由な雰囲気、働きやすい職場で、良いポストと良いメンバーにも恵まれて、なんとか留学生生活を開始することができました。当初は私の他の2人の男性ラボメンバーと、ポストを含め女性6人からなる総勢9人のラボでしたが、2人の男性ラボメンバーがMDコース（医師免許取得のためのカリキュラム）へ進むのに合わせて辞めてしまったため、私の他は女性ばかりのラボとなってしまいました。それもあってか、祝日や誰かの誕生日など何かにかじつけてはラボミーティングで頻りにケーキが振る舞われるような、ほのぼのとした居心地の良いラボとなっています。

その所属しているラボはBiochemistry and Molecular Biology Labで、ALアミロイドーシスに関する研究を行っております。ALアミロイドーシスは異常な形質細胞が産生する免疫グロブリンが不溶性の異常蛋白（アミロイド）となって全身に沈着し、多臓器不全を引き起こして死に至る難病で、その臨床はメイヨークリニックが世界をリードしています。当ラボでは、その異常免疫グロブリンの生化学的、分子生物学的解析を行っています。ALアミロイドーシス患者さんの骨髄中の形質細胞クローンと末梢血中のBリンパ球クローンの関係性を、免疫グロブリン遺伝子配列を比較することにより検討したり、また異常免疫グロブリンの安定性やアミロイド原性を検討したりしております。第3内科はアミロイドーシスの他、神経内科、リウマチ・膠原病内科も扱っておりますが、神経内科の難病には、アミロイドーシスと同様難溶性異常蛋白の蓄積が原因で起こるものが少なくありません。また形質細胞を含む免疫、血液学の知識はリウマチ・膠原病内科の理解にもつながります。当クリニックで得た知識を帰国後に当科および信大病院での診療、研究に生かせるように、残りの期間も頑張ってお参りたいと思います。

最後に、留学生生活を支えてくれます医局と信大病院、そして家族に感謝申し上げ、終わりたいと存じます。

(2011年2月)

(信州大学医学部内科学第3講座所属)